



議長 団

第22回定期地方大会

要求運動・組織拡大の前進

住民の足 ローカル線を守ってゆこう



国労近畿

第242号
発行 羽生 隆盛
編集 木下 賢一
大阪市北区錦町2-2
TEL06-6354-0700
FAX06-6358-1465

諸要求実現めざし総団結で

発言要旨

8月23日、近畿地方本部は第22回定期地方大会を国労大阪会館にて開催しました。

大会は、有田副委員長の司会で始まり、議長に志茂代議員(大阪) 副議長に松本代議員(京滋)を選出しました。

山本委員長が執行部を代表してあいさつ(別掲)。来賓では、社民党より、大椿ゆうこ副党首、大阪労連 福岡議長、こくみん共済コープ大阪推進本部事業推進部 木内茂幹次長から挨拶を受けました。メッセージ紹介の後、国労西日本本部・大和副委員長より激励と連帯のあいさつを受けました。

経過報告を、有田副委員長が行い、江口書記長が2025年度の運動方針案を提案しました。

討論では7名が組織拡大の取り組みを中心に安全問題や労働条件の改善を求める取り組み等について活発に発言。書記長が討論の集約を行い、運動方針案を採択。

その後、予算案の提案・採択。スト権確立、役員改選、特別決議、大会宣言を採択し、団結ガンバロウで大会を締めくくりました。

組織強化拡大

この一年間で組合員の皆さんの奮闘により、大会以降、大阪貨物分会で3名、草津列車区、長浜駅で計5名の拡大があった。安全最優先、職場の労働条件改善要求実現のため頑張っている国労、日常的に活動している国労が存在し、その姿が見えているから成果に繋がっている。組織拡大をするために何をやるのか、仲間を信じ、信頼し行動しなければならぬ。諦めたら終わりである。

安全サービスを守る闘い

会社は、経費削減を強行し安全を脅かし、駅では窓口の閉鎖、遠隔MVの拡大、管理駅の拡大、さらに統合した統括駅、委託化の拡大がなくならなかったかと思いきや直営化し、無人時間帯の拡大、さらに無

貨物会社は2019年より導入した評価制度を大きく変更してきた。主な内容は、等級制度を現行より細分化し、各等級で基準額を設け基準額到達後は昇給額の1割のみとなり、モチベーションの低下につながる。

組織拡大について。今年の春闘時期に吹田機関区で岩崎さん、藤本さんの2名の拡大をしている。何年も声をかけ続け、国労に共感してもらえ運動があったからだと思う。貨物会社の協力会社、西日本ロジステイクスでの拡大も、国労が継続的に動いてきたことにある。

◎堀田代議員(大阪・天王寺車掌区)
天王寺車掌区では要員不足

人駅という施策を強行している。安心してJRを利用できない。万が一の時には誰が助けしてくれるのか。安全を守るためにまず人、駅には駅員が必ず必要。何がお客様フアーストなのか。また2023年1月24日の大雪で、輸送障害を起こした時の長谷川社長以下のパワハラ発言があったことが明

国労の姿が見える日常活動を

山本委員長あいさつ(要旨)

らかに。従来から危険し事故前に戻っていると指摘した通りになっている。乗務員による乗泊清掃の提案に対し交渉のあり方を正すために経営協議会や交渉を拒否した。社員労働条件を守るために、どう要求し、どう運動すればいいのか安全とサービスを守

26春闘は客貨一体、グループ会社での組織拡大を見据えた統一闘争として、大幅賃上げ、労働条件の改善はもとより『大軍拡ではなく税金は生活向上に使い差別と貧困の悪政をやめろ』など国民的課題を結合した国民春闘として闘うことが求められている。ヤマ場ではストライキで闘うことを議論し、決定したい。

8月6日広島、8月9日長崎で平和祈念式典が開催され、日本政府と世界に核兵器の廃絶、核兵器禁止条約への批准を求めた。26春闘勝利、組織強化拡大、安全輸送確立、労働条件改善、9条改憲を許さず平和と民主主義を守るために運動の先頭に立つて闘う決意を申し上げ挨拶とする。

2025年度執行部

執行委員長(新)	羽生 隆盛(大阪)	総括、総務部長
執行副委員長	有田 修(兵庫)	組織総括
(新)	江口 芳生(京滋)	業務総括
書記長	(新) 宮野 正貴(京滋)	企画・法対部長・財政部長
執行委員	西澤宗司郎(大阪)	組織部長、貨物担当
	木下 賢一(京滋)	家族会
	山下 大輔(京滋)	教宣部長
(新)	山中 和也(大阪)	業務部長
	竹塚 秀二(大阪)	調査部長
会計監査委員	井上 賢治(大阪)	
(新)	谷澤 昭男(京滋)	

【退任された役員】

山本 泰光さん、小西八十四さん、三塩 和敏さん
ご苦勞様でした。

祝電・メッセージ

- ・日本共産党
- ・全日本港湾労働組合関西地方本部
- ・化学一般関西地方本部
- ・全印総連大阪地方連合会
- ・近畿労働金庫梅田支店
- ・国労東京地方本部
- ・国労北陸地方本部
- ・国労岡山地方本部
- ・国労広島地方本部

のため勤務の買い上げが行われている。

ダイヤ改正のたびに乗務の準備時間が少ない、食事時間が少ない、連続乗務が増えたと不満を持っている。

組織拡大について。行動資金を一時凍結するということが、分会は地区本部指示に基づいて拡大行動を取り組んでいる。分会の報告に問題があると理解している。組織拡大の進め方に私も悩んでいるところがある。ご指導があれば実践していきたい。

きのくに線、和歌山から御坊間、阪和線、日根野から和歌山間におけるワンマン運転の話がされている。南海トラフ大地震で津波などが発生するとと言われる線区におけるワンマン運転、駅無人化、乗務員区統廃合の施策は認めることはできない。

◎小関代議員（兵庫・芦屋駅）
新しい駅の販売体制として窓口を閉鎖し、遠隔MV、遠隔改札の導入で駅の係員を減らしている。みどりの窓口がある駅では、休日や異常時など長蛇の列ができています。

被管理駅の一部を無人にしてバリアフリー、改札機の詰まりなどを拠点駅からの駆けつけで対応することを西明石統括駅で開始し、姫路統括駅へも広めようとしている。地域や利用者に訴えて世論を変える運動が必要だ。

ローカル線問題。8月6日、2024年度の区間別平均通過人員を公表した。この結果を持って判断することがないよう注意していく必要がある。芸備線、加古川線がローカル線存続の突破口だと思う。近畿も地域、岡山地本、広島地本などと連携して運動を進めていく必要がある。

組織問題。一人一人が職場で存在意義を訴え、職場の不満を聞くことで組織拡大につなげていく必要がある。

◎山中代議員（京滋・草津列車区）
乗泊の清掃について。大幅なダイヤ乱れの対応等、男性女性の出面比率で清掃ができない日が発生したり衛生面で問題がある。強行しようとする動きには断固反対する。

運動クレペリン検査再試験の条件拡大について。会社は不適格になった人の能力の回復はないと回答していたが、特別臨時検査で約2割の人の合格が出ている。会社の回答が覆ったことが証明された。現行の3回制限の制度の更なる改正を求める。
組織拡大では2月1日付けで草津列車1名、3月1日付けで長浜駅1名の計2名の拡大があった。

◎山脇代議員（兵庫・JR西日本テクノス網干支店）
2020年4月から在来の工場部門で、業務委託化が進められ、昨年4月に台車輪軸検修業務が委託され工場部門の完全委託化が行われた。

テクノス台車部門では日常の業務を消化することで精一杯のため、技術継承が思うように進んでいない。また委託会社であるテクノスは業務区分の見直しを終了し、今後はJRからの業務拡大ができない、今後JR以外の業務を拡大する方針を明らかにしており、品質面での低下が危惧される。

問題が発生すれば改善を求めることが重要な課題となっている。
26春闘はこれまで以上の大幅賃上げが求められる。合わせてシニア、グランドシニアの賃金改善に努力をお願いしたい。

分会で1名以上の拡大を勝ち取るという決意である。
◎藤原代議員（大阪・鳳電車区）
来年の春に職場や小規模区所の統廃合として鳳電車区が挙げられた。その業務を天王寺、和歌山電車区に移管し解消することが出されたようだ。阪和線がダイヤ乱れや自然災害で止まっている時も羽衣線は動いているが、鳳電車区がなくなれば派遣させる手段が奪われてしまう。合わせて紀勢線の四両ワンマン化の話が出ている。会社は、ミラーだけで充分対応できると言うが、それでは安全が担保できない。

南海トラフが確実に来ると言われているが、車掌と2人で避難誘導も大変なのに運転士一人に任せるとするのは安全が担保されているのか。

◎森下代議員（大阪・鳴野駅）
ホームスクリーンについて、6月20日に鳴野駅で、お客様が線路に転落したがホームスクリーンは鳴動しなかった。それを見た他のお客さまが線路に助けに入ったが、ホームスクリーンは鳴動しなかった。別の日に大雨が降った時にホームスクリーンが鳴動した。

駅長が会社に尋ねたら、ホームスクリーンは10回に3回から4回鳴動すればラッキーだという位置づけで、そういう仕様であるということである。会社の姿勢として問題だ。

7月から、無人駅の駆けつけ対応が始まった。7月7日に河内岩船駅で無人時間帯にホーム非常ボタンが押された。非常ボタンが押されたのが下

書記長集約（要旨）

組織拡大について、分会等ではなかなか厳しい組織状況である。それでも何とか拡大を勝ち取りたいという決意もいただいている。西労組では問題を解決することができない、やっぱり国労を増やさないといけないところにある。努力をしていただきたい。

春闘について、25春闘はこぞって賃上げのムードだったが、それ以降も物価高騰が続いて実質賃金は上がらずとい

2025年近畿地本機関紙コンクール結果

近畿・教宣部

機関紙大賞 『国労天車』 天王寺。車掌区分会

入選 『国労米列ニュース』 米原列車区班

『ほんせんdigital』 米原列車区班 業務部

『よんせん』 京都電車区班

特別賞 『国労兵庫地域分会』 兵庫地域分会
『国労大阪』 大阪地区本部

以上 6紙



2025年生活・賃金実態アンケート

QRコードをスキャンするか、URLから回答してください

URL

https://docs.google.com/forms/d/1DWPJNBGZ141oHhnEWzxwkopiZal_eevA4MAZC388CQo/



う状況が続いている。大企業の内部留保の問題等々も引き続き訴えながら、今回ストライキでという声はなかったが、今後の討論の中で、それぞれ期間の討論も含め進めていきたい。

安全問題、職場の問題等々が出された。もうけ第一に戻りつつあるところを超えて戻っていると言わざるを得ない状況である。安全よりも儲けである。車両工場部門の問題についても、テクノスでは外国人の雇入れ、9月から現場配属という動きになっている。人を確保して技術継

承という会社の回答だったが、そういうことになっていない。政治の問題について、与党大敗、消費税の廃止や減税を願う声が多数だということと平和を求める声を結集して、春闘を含め共闘を進めていきたいと思っている。

組織拡大、安全問題、ローカル線の問題、たくさんやらないといけないことはあるが、何のために労働組合がある、なんのために闘うのか私も含めて考えながら運動を進めて行きたい。